

横浜市立大学後援会

NEWS LETTER

2017



会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 矢部 丈太郎

会員の皆様には、日ごろから横浜市立大学後援会の活動に対しご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

後援会は、在学生の保護者から収めていただいた会費等によって運営されており、学生の福利厚生を増進させ、より充実した学生生活を過ごせるような様々な支援活動を行っております。その内容については本通信に掲載されていますので、ご高覧ください。

さて、保護者の皆様にとって最大の関心事は、お子さんの就職ではないかと思います。人は生まれた時から節目節目において競争に直面しますが、なかでも就活競争は受験競争と並び厳しいものです。私は他大学でキャリアセンター長を勤めたことがあり、会社の人事担当者と話す機会がありました。会社では100人採用するとき、ある基準を設けて順に1位から100位まで採るのではなく、すべて1位の人だけを採用するのだと話していました。土俵は自分で決められるものであり、これだけは他人に絶対負けないというものがあれば、その土俵で勝負すれば勝てるということです。最近は就活で自己分析をしています。本人は意外と自分の強みを知らないことが多いようです。保護者や教員など周りの者が気付いて助言してあげることが必要だと思います。後援会がそのようなコミュニケーションの場として活用されることを願っております。



学長挨拶

横浜市立大学 学長 窪田 吉信

平素から矢部会長をはじめ横浜市立大学後援会の皆様方には、本学に対して多大なる御支援をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、私ども横浜市立大学では、社会の急速な変化、特に国際化と多様化が進む中、英語による発信力や課題解決力、そして豊かな教養と専門性を備え、グローバルに通用する人材を育成しております。

また、先進的な研究と高度な診療を行い、その成果を社会的に還元するとともに世界に発信し続けております。

本学は、「国際都市横浜と共に歩む」公立大学として、現在、国際総合科学部、医学部（医学科・看護学科）と、5つの大学院研究科を設置しておりますが、平成30年4月にデータサイエンス学部を新設いたします。

また、本年度は6年ごとに策定する第3期中期計画の初年度となり、「横浜から世界へ」のもと、大学の特徴を伸ばすことや、教育と研究、医療の質の更なる向上を目指すとともに、グローバル化の推進や地域貢献に力を入れてまいります。

データサイエンス学部の新設は、IT、IoT化が急速に進化する社会への対応を見据えたものでありますが、本学の現在の専門領域、特に、経営科学、理学、そして医学のさらなる質の強化にもつながるものと考えております。

さらに、現在の国際総合科学部につきましては、より一層の発展を目指し、再編を計画しております。加えて、在学生がより積極的に留学や海外研修に取り組めるように支援体制を強化したり、海外から多くの留学生を受け入れる環境を整えることなども大きな重点目標となっております。

後援会の皆様方には、これまでも、学修活動やクラブ活動、留学や就職に関係する事業等、幅広い御支援を賜ってまいりました。引き続き、学生生活の改善と、本学のプレゼンス向上のため、より一層の御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。



学部長挨拶

国際総合科学部長（後援会副会長） 中條 祐介

後援会会員の皆様におかれましては、本学の教育にお力添えいただき、心より感謝申し上げます。大学全体に関する動向としては、昨年度のTimes Higher Educationによる世界ランキング第16位（学生数が5,000人未満の部）に続き、今年度もTimes Higher EducationによるTop Universities with the Best Student-to-Staff Ratio 2017において、世界第21位（教員一人当たり学生数5.0人）となりました。この比率は、その大学の教育指導体制の強さを示す指標といえます。また、国内の大学としては第6位になりますが、上位は医歯薬系の大学が占めており、文科系の学生割合の高い本学が上位にランキングされたことは特筆すべきことと思います。今後も教員と学生の距離の近さを活かした教育活動を展開していきたいと思っております。

教育面では、新たな領域横断プログラムとして「起業家育成プログラム」を開始しました。前期開講の「起業家人材論」と後期開講の「起業プランニング論」を基盤科目とする構成になっています。起業家による講話や企業でのフィールドワークを通じて自らのビジネスプランの実現可能性を探るなど、現場を重視した内容になっています。会員の皆様の中で本プログラムをご支援頂ける方がいらっしゃいましたら、私までご一報いただけますと幸いです。

課外活動では、第5回全国学生英語プレゼンテーションコンテストや英語で行う国際人道法模擬裁判大会で最優秀賞や最優秀弁論者賞の受賞者がおりました。外国語学部や法学部の学生に伍して勝ち取った栄冠であることを考えると、さらに輝きが増す成果と思えます。また、運動部に関しては、今年6月に行われた第36回 首都大学東京・横浜市立大学総合定期戦において、8対7で5年ぶりに本学が総合優勝を果たしました。

さて、平成30年度より新学部として「データサイエンス学部」が開設されます。このように前進を続ける横浜市立大学の動きを後援会会員の皆様にご理解いただき、さらに背中を押していただければ幸いです。



2018年4月、YCUは首都圏初のデータサイエンス学部を開設します！

データサイエンス学部では、日々蓄積される様々なデータを解析し、読み解くための高度なスキルを身につけることはもちろん、データから新しい価値を見出し、データで世の中を変えていくことができる人材を育成していきます。

データサイエンスで変化を生み出す力を育てたい



データサイエンス推進センター長 岩崎 学 教授

情報技術の飛躍的な進歩に伴い、社会のあらゆる所に多種多様なデータが蓄積されつつあります。そのようなデータから価値を見出し、データに基づく意思決定ができる人材が求められています。変化する社会であるからこそ、どんな場合にも変わらない確固とした基礎力を備え、その上で、柔軟な発想で変化に対応する力、あるいは変化を生み出す力が必要となります。

データサイエンス学部は次世代を担う新しい学部です。この学部の設置により、YCUは大きな歴史の一步を踏み出します。

データサイエンス Topics

■データサイエンス学部動画を配信中！

データサイエンス学部紹介動画をYou Tubeで公開しています。ぜひ一度ご覧ください！

YouTube

<https://www.youtube.com/user/YokohamaCityUniv>



動画は
こちらから



■「横浜市、企業とともに考えるデータサイエンスの未来」フォーラムを開催しました。

YCUは9月1日（金）、横浜市と共催し、「横浜市、企業とともに考えるデータサイエンスの未来」を開催しました。会場となった横浜市開港記念会館には、2018年4月にYCUが開設する首都圏初のデータサイエンス学部に期待を寄せる企業などから266名が参加。データサイエンスを学んだ人材が、今後横浜市をはじめとする行政や産業界の発展にどう貢献できるか、行政や企業の関係者が登壇し、トークセッションで活発な意見交換を行いました。

■データサイエンス学部の入試日程はこちら

2018年4月に新設されるデータサイエンス学部では、横浜市立大学で初めてとなる「後期日程入試」を実施します。

データサイエンス学部 入試日程

	募集人員	出願期間 (郵送可)	選考日	合格発表日	入学手続き日
一般選抜 [前期日程]	40名	2018年 1/22(月) ～ 1/31(水)	2018年 2/25(日)	2018年 3/9(金)	2018年 3/15(木)
一般選抜 [後期日程]	5名		2018年 3/12(月)	2018年 3/20(火)	2018年 3/27(火)

詳細は必ず「平成30年度 一般選抜学生募集要項」をご確認ください。

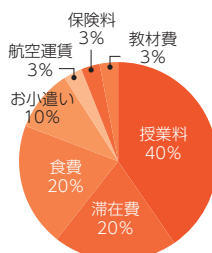


YCUサポート募金

海外で頑張る学生をサポートしませんか？

横浜市立大学では、「YCUサポート募金」を設け、みなさまからのご支援をお願いしています。
現在、特に海外留学を希望する学生を経済的に支援するための「YCU留学サポート奨学金」を強化募集中です。

留学にはお金がかかります。
例えば、
北米に1学年留学する場合の費用
約**300～500万円**



本奨学金により
最大100万円／1人 支給



今年度は北米の大学に留学する学生1名に奨学金を給付しました。
より多くの学生をサポートするため、みなさまの力をお貸しください！

■ お申込み先

電話：045-787-2447（広報室 基金担当）

Webサイト：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/univ/kifu/index.html>



YCU古本募金

ご自宅で不要になった書籍類（本・CD・DVD・ゲームソフト等）はありませんか？
ご提供いただくと、その買取金額が全額、大学に寄附されます。



■ 古本募金の流れ

STEP1

梱包

書籍類を段ボール箱に
詰めてください。

STEP2

申込

電話またはwebから
お申込みください。
（下記参照）

STEP3

集荷

宅配業者がご指定の場所
に集荷に伺います。
5冊以上から宅配費用が
無料になります。

その後、提携会社バリューブックスが査定・買取をし、売却代金が横浜市立大学に寄附されます。
これまでに約6.5万点の古本をご提供いただき、約127万円が大学に寄附されました。
本制度により集まった寄附金は、大学図書館の図書購入のために活用させていただきます。

■ お申込み先

電話：0120-826-292（提携会社バリューブックス）

Webサイト：<http://www.furuhon-bokin.jp/yokohama-cu/>



■ お問い合わせ先

横浜市立大学 広報室 基金担当

電話：045-787-2447

メール：kifu@yokohama-cu.ac.jp

学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学生の学修・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約67万冊の図書、約1万4千タイトルの雑誌、約2万2千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学修・研究に取り組んでいます。センター内には400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学修に活用できるスペースを備え、学生の様々な学修スタイルをサポートしています。

学修サポートの一環として、学術情報センター職員による学修・研究のアドバイス（レファレンスサービス）のほか、学術情報センターの活用法を身に付けた学生ライブラリストッフによる相談も受け付けています。学生ライブラリストッフは、新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組んでおり、学生の視点を取り入れ、学術情報センターをより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

また、卒業生利用制度を設けており、卒業後も図書館を利用することができます。

●後援会からの図書寄贈

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境が一層、充実しています。

昨年度に引き続き有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただいています。「学生選書」による寄贈図書は4月に企画展示も行い、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学修方法、留学、就職活動に関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『一生使える見やすい資料のデザイン入門』や『まちづくりの仕事ガイドブック：まちの未来をつくる63の働き方』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学修・研究に大いに役立っています。



ゼミ活動

経営学コース 3年 ド・クイン・ホア

経営管理論ゼミは座学に加えて、現場に出て実践から経営学を学ぶことを重視しています。2016年には、大学に隣接する「金沢臨海部産業団地」の企業を紹介し、企業と住民の交流を目的とした「Aozora Factory」を企画・運営しました。

皆さんは「金沢臨海部産業団地」をご存知でしょうか。約1,000社もの企業が集積する関東でも最大級の産業団地が大学の隣に存在しています。しかしながら知名度が低く、様々な要因で近年企業数が減少しています。そこで私たちは「この産業団地、ここにある企業の魅力をどうしたら発信できるか?」を考え、子ども向けの体験型ワークショップ「Aozora Factory」を発案しました。

ゼミ生と地元企業経営者が産学連携で一丸となり、紆余曲折で作り上げた「Aozora Factory」（10月開催）には、初年度にもかかわらず、12のワークショップ、600名以上の来客者がありました。日経新聞等の各種マスコミ媒体で取り上げられるなど反響も大きくありました。

その後11月に、「Aozora Factory」の振り返りと今後の方針を決めるために、静岡県熱海にてゼミ合宿をしました。最初に、砂浜に座って、青空の下、海風を感じながら全員の気持ちを話し合いました。何か新しいことが実現できそうな気分になりました。

そして夜に「Aozora Factory」について話し合いました。初年度の「Aozora Factory」では何ができて、何ができなかったのか。来年度の「Aozora Factory」をどうするのかについて3時間ほど旅館の和室でお揃いの浴衣を着て話し合いました。最後にはゼミ生が編集した振り返りビデオを皆で見て、来年への想いを共有しました。

この合宿を行ったお陰で、ゼミ生全員が一段と仲良くなり、一人ひとりのモチベーションが高まりました。ゼミ室という狭い空間にずっと滞るとなかなか新しいアイデアが出なかったり、自分に正直になれないときもあります。後援会からのご支援は私たち芦澤ゼミ生のやりがいや友情の向上に繋がりました。ここに感謝を述べさせていただきたいと思います。

今後ともゼミ生一同、日々学んでいきます。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。



国内学会発表

生命環境システム科学専攻 博士後期課程 田尾 文哉

平成28年11月16日から18日に九州大学百年講堂で開催された第29回日本動物実験代替法学会において、「新規ECM薄層充填技術がもたらす肝スフェロイドの細胞機能及び微細構造への効果」のタイトルでポスター発表を行いました。また、本学会と共同開催で行われた国際シンポジウム Asian Congress On Alternatives and Animal Use in the Life Science 2016（アジア動物実験代替法学会2016）において、Young Scientist Award（若手科学者賞）を受賞し、記念講演を行いました。本賞は、35歳以下の若手研究者から3名が選ばれ、私は日本人で唯一の受賞でした。

動物実験代替法学会は、動物実験の適切な施行の国際原則である3Rs（動物を用いない代替実験へ移行する・動物使用数を削減する・動物への苦痛を減らす）の推進と普及を目的に開催され、研究者や学生が一同に会し、代替法に関する最先端の研究結果が報告されました。

今回の発表は、我々の生体組織に存在している細胞外マトリクス（ECM）を試験管内で再構築したスフェロイド（複数の細胞を団子状に凝集させたもの）内部に充填し、スフェロイドの細胞機能や微細構造を制御する方法に関するものです。ポスター発表の際には、学会参加者から多くの質問、コメントを頂き活発な議論を行うことができました。シンポジウムでは、「分子・細胞・個体の視点からの代替法」をテーマに幅広い分野の先生方の講演を拝聴し、代替試験法開発の現状と将来について学びました。

後援会からのご支援により、貴重な経験をすることができました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い致します。

International 国際交流

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外での様々な学びや実践の場を用意しています。後援会の支援を受け、海外で様々な体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちからの体験談をお届けします。

また本学では、平成29年度も、学生からの様々なニーズに応えるべく、新たにプログラムを増やしました。ナバラ大学(平成30年度派遣開始)への交換留学のほか、スペインへの語学研修を増設しています。

海外留学・研修プログラム		
	学生数 (予定)	プログラム名
語学研修 (英語)	7	ディーキン大学夏季語学研修(オーストラリア)
	10	英国大学夏季語学研修 (サセックス大学、アングリア・ラスキン大学)
	6	サイモンフレイザー大学夏季語学研修(カナダ)
	7	ダブリン・シティユニバーシティ夏季語学研修 (アイルランド)
	(2)	カリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD) 春季アカデミックスキル研修(アメリカ)
	(12)	ダブリン・シティユニバーシティ春季語学研修 (アイルランド)
	(5)	ビクトリア大学春季語学研修(カナダ)
語学研修 (中国語)	(未)	上海師範大学春季語学研修(中国)
語学研修 (フランス語)	4	トゥーレーヌ語学学院(フランス)
語学研修 (スペイン語)	1	NEW! ナバラ大学夏季語学研修(スペイン)
夏季講座	1	UCLA夏季講座(アメリカ)
交換留学	0	上海師範大学(中国)
	3	ウィーン大学(オーストリア)
	3	仁川大学校(韓国)
	1	タマサート大学(タイ)
	2	ベネチア大学(イタリア)
	2	リヨン第3大学(フランス)
	1	マレーシア科学大学(マレーシア)
	1	ゲーテ大学(ドイツ)
	1	NEW! 東海大学(台湾)
	1	NEW! 高麗大学(世宗キャンパス)
長期派遣	(2)	NEW! ナバラ大学(スペイン) ※H30年度派遣開始
	4	ブリッジプログラム
	1	セメスター留学
	9	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

アカデミックコンソーシアム参加支援プログラム

所属	参加 学生数	主な渡航先
アカデミックコンソーシアム (まちづくりユニット)	16	タイ(バンコク)
アカデミックコンソーシアム (持続可能な都市づくり共通教育プログラム(SUDP))	6	タイ(バンコク)

海外フィールドワーク支援プログラム		
所属	参加学生数 (予定)	主な渡航先
共通教養	(15)	カナダ(バンクーバー、ビクトリア)
	(17)	オーストリア(ウィーン)
人間科学コース	15	イタリア(ローマ)
国際文化コース	18	イギリス(ロンドン)
社会関係論コース	(20)	イタリア(ローマ、トリエステ、ベネチア)
まちづくりコース	29	台湾(台北、新北)
グローバル協力 コース	7	ネパール(カトマンズ、パクタプル、ナガルコット)
	(12)	中国(広州、深圳、香港)
	(12)	オランダ(ハーグ)、ベルギー(ブリュッセル)
経営学コース	30	ベトナム(ハノイ)、タイ(バンコク、チェンマイ、アユタヤ)
	10	台湾(台北、新竹、台中)
	(12)	フィリピン(セブ、カオハガン)
会計学コース	25	タイ(プーケット)
看護学科	14	フィリピン(イロイロ)
物質システム科学 専攻	27	台湾(台北)
生命環境システム科学専攻	(11)	オーストラリア(メルボルン)
	15	台湾(虎尾、台北)

海外インターンシップ

○春季(H29.2~3月)

国・都市名	参加学生数	実習先
アメリカ・ロサンゼルス	1	United Television Broadcasting Systems, Inc.
オーストラリア・シドニー	1	Jams. TV
オーストラリア・メルボルン	1	Ashburton Primary School
オーストラリア・ブリスベン	1	Lone Pine Koala Sanctuary
オーストラリア・ブリスベン	1	Brisbane Marriott Hotel
ベトナム・ハノイ	1	MINA日本語センター
韓国・ソウル	1	ベストフレンド韓国語学校

○夏季(H29.8~9月)

国・都市名	参加学生数	実習先
アメリカ・ロサンゼルス	1	Nippon Travel Agency America
アメリカ・ロサンゼルス	1	Interplace, Inc
アメリカ・シアトル	1	The Museum of Flight
アメリカ・シアトル	1	YMCA KTUB (Kirkland Teen Union Building)
オーストラリア・シドニー	1	Konica Minolta Business Solutions Australia
オーストラリア・メルボルン	1	Balcombe Grammar School
オーストラリア・メルボルン	1	Solway Primary School
シンガポール	2	Konica Minolta Business Solutions Asia
シンガポール	1	5footway Management
シンガポール	1	D&N Singapore
インド・プネ	1	Adiwas Vikas Probhodini
インド・プネ	1	Fidel Softech
韓国・ソウル	1	ベストフレンド韓国語学校
中国・上海	1	上海良図商務諮詢有限公司

国際ボランティア

長期休業期間に、世界約30か国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムは、TOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会(CIEE)が提供しています。

H29(夏)派遣国実績

ドイツ、フランス、チェコ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム、カンボジア

海外留学・研修プログラム

ビクトリア大学春季語学研修

経済学コース 3年 池上 翔也



私はスピーキングとリスニングを中心に実践的な英語を学ぶプログラムに惹かれ、ビクトリア大学の語学研修に参加しました。英語が不得意なため苦手意識を持っており、苦手意識を克服することを目標に語学研修に臨みました。午前中は座学で学んだ表現を使って自分の意見を述べ、他の学生とディスカッションをする会話重視の授業、午後はホテルやレストランなどのホスピタリティに関する授業を受講しました。よって、実践的な英語表現を学ぶだけでなく、いかに英語で自分の意見をわかりやすく伝えるか常に考えることで、コミュニケーション能力も鍛えることができました。現地ではホームステイでの滞在のため、カナダの人々の暮らしや文化を学び、新たな価値観の発見も多々ありました。同時に、国内にはわからない日本の素晴らしさに気付くこともありました。海外において受身の状態では吸収できることは少なく、いかに自分から行動し、コミュニケーションを取ることや、新たな価値観を見つけることが重要だと感じました。語学だけでなく今後の学生生活やキャリアを築く上で大切なことを多く学ばせて頂きました。後援会の皆様、ご支援いただきありがとうございました。

リヨン第3大学交換留学

人間科学コース 3年 渡部 綾一



人間の自由と思想を考えている中で、現代思想の分野をけん引してきたフランスに興味を持ち、その歴史や文化に直に触れながら勉強したいと思い、リヨン第3大学に留学することを決めました。この留学では大学の哲学部に所属し、月～金曜日はサルトルやフーコーなどの授業を受講しました。また、土曜日にはリヨン補習校という日本国籍の子どもたちに日本の国語を教える学校で、先生のボランティアをしていました。この留学を通して、文化社会的な要因が人間の思想(特に恋愛観や人生観)や発達にとってとても重要であることを改めて感じることができました。また、フランスの良さだけでなく、日本の良さも同時に感じられた留学だったと思います。私の研究分野は、子どもの発達なので、世界基準の視点も考慮しながら、日本という文化社会ならではの良さを子どもたちが感じられる教育や社会の在り方を考えていきたいと思っています。留学にあたりご支援いただいた後援会のみなさまには大変感謝しています。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム

人間科学コース 3年 菊浦 さおり



私は大学入学時にこのプログラムの存在を知った当初から参加に向けて計画を立ててきました。参加直前は本当にこのプログラムを今後の人生に活かせるのか不安に思っていたのですが、いざ始まってみると渡航前には想像だになかった素晴らしいことを沢山学ぶことができました。テーマパークでの就業体験やディズニーの講師による授業を通して世界中で称賛されるディズニーのサービスを学んだだけでなく、各国から集まるルームメイトや職場の同僚など沢山のひととの出会いを通して、狭い世界に閉じこもらずに多角的な視点を持つことの重要性を学びました。自分のためだけに勉強するのではなく、世界中から来るゲストや同僚など、人を幸せにするために働くというこのプログラムに参加したことが私の世界を大きく広げるきっかけになりました。この度のご支援に対し厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

海外フィールドワーク支援プログラム

ローマフィールドワーク

人間科学コース 3年 小林 郁美



今年の8月に約1週間、三上ゼミはイタリアのローマにて海外フィールドワークを実施しました。この海外フィールドワークでは、教会やカタコンベといったキリスト教に関わる建築物などを実際に訪れ、キリスト教の「死の宗教」とも称される側面を感じ、「生と死」というテーマについて考察すること、そして「宗教」と「生と死」のつながりとはこういったもののなかを探究すること、これら2つの目的を軸に活動しました。

ローマの教会は荘厳で宗教的な神聖さが非常に感じられる場所であり、いくつかの教会では信徒による礼拝に立ち会うこともできました。自分の目で実際の宗教的儀礼を見ることができ、「宗教」という存在が人間の「生と死」にどのような影響を与えているのかを深く考えさせられるとても良い機会となりました。また、カタコンベは今回の目的の中でも特に「死」のテーマに特化した場所であったことから、「宗教」と「死」の関係性の強さを感じることができました。この海外フィールドワークで経験したことを元に、今後のゼミ活動をより良いものにしていきたいと思っています。海外フィールドワークを実施するにあたり、支援していただいた大学関係者及び後援会の皆様に感謝いたします。

海外インターンシップ

実習先：Konica Minolta Business Solutions Australia (オーストラリア)

会計学コース 3年 石田 庄吾



海外インターンシップを通して私が学んだことの一つに、「積極性の大切さ」があります。慣れない環境では、周りの人は皆、自分のことを知りません。何もしなければ誰も自分のことを見てくれませんし、助けてくれません。

しかし、逆もまた然りです。自分が積極的に声をかけたり、分からないことを聞いたり、積極的に物事に取り組むと、周りの人々は必ず力になってくれます。また、自分はこうするべきだと思うことを、誠意を持って伝え、相手は必ず真剣に自分の意見に向き合ってくれます。何事にも積極的に取り組み、自分の考えや意見を、誠意を持って表現すること。これが大切なのだと気づくことができました。

今回のインターンシップを通して、自分の将来像を見直すことができ、またそれまでにはなかった興味が新たに湧きました。今後、自分の就職活動やこれからのキャリアに活かしていきたいです。自分の想像するビジョンを実現することができるように、また今回の貴重な経験を無駄にしないように、日々頑張っていきたいと思います。

最後に、多大なるご支援・ご協力をくださった後援会の皆様に、心より感謝を申し上げます。

国際ボランティア

派遣国：ベトナム

グローバル協力コース 2年 山成 比奈乃



私は高校生の頃からボランティアと海外に関心があり、大学1年の時にそれが両方とも体験できる国際ボランティアというものがあると知り参加を決めました。初めての海外で行く前は不安の方が大きかったのですが、ベトナムの人はみんなとても優しく親切で、私のことをとても歓迎してくれました。さらに、様々な国の人と英語でコミュニケーションをとることやシェアハウスで生活すること、自分で考えて行動や提案することなど日本では絶対に経験することのできないかけがえのない経験ができ、国際ボランティアは自分にとってとてもプラスになるものでした。また、この経験を次に活かしたいと思い、今年も同様に国際ボランティアに参加し、カンボジアで言語教育のお手伝いをさせていただきました。このような貴重な経験を支援してくださった後援会の皆様には感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。

アカデミックコンソーシアム※

2017年9月11日(月)に、アカデミックコンソーシアムの総会および国際シンポジウムがタイのタマサート大学(バンコク)で開催されました。シンポジウムでは、窪田学長が基調講演者として登壇し、高齢化時代における横浜市の医療政策と市大の役割について講演を行い高い関心を集めました。シンポジウムに先立つプレイベントとして、まちづくりユニットの学生による国際ワークショップや、持続可能な都市づくり共通教育プログラム(集中講義)が開催され、計22名の市大生が参加してタイ、マレーシア・韓国の学生たちと多国籍での交流を行いました。



※アカデミックコンソーシアムは、横浜市立大学が事務局をつとめる都市の課題解決を目的とした大学間ネットワークで、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、インドネシアの大学が参加しています。



伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上を期待して設置しています。

平成29年度は9月22日（金）に八景キャンパスシーガルホールにおいて、伊藤雅俊奨学生及び成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

式典では奨学生・特待生への表彰状及び目録の授与以外に代表学生による学習成果の発表を行いました。また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催し、学生・教員・保護者が親睦を深める良い機会となりました。



学長賞・学長奨励賞

本学の名譽を高め、学内の士気高揚に貢献する成果を上げた学生及び団体に対し、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献、スポーツ及び文化活動において優れた業績を上げた学生の功労を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは受賞者に副賞をお渡ししています。

平成28年は英語で行う国際人道法模擬裁判大会で最優秀弁論者賞を受賞した国際総合科学部 国際都市学系 グローバル協力コース 3年（受賞当時）の浦山太陽さんと第5回全国学生英語プレゼンテーションコンテストで最優秀賞を受賞した国際総合科学部 国際教養学系 人間科学コース 3年（受賞当時）の佐藤圭さんが受賞されました。

学長奨励賞には個人の部として、国際英文医学誌に論文掲載された繁田奈央子さん（医学部）、第5回サイエンス・インカレでDERUKUI賞を受賞した鈴木奈央子さん（国際総合科学部）、2016年少林寺拳法全国大会の男子単演有段の部で優勝した岩瀬勝稔さん（国際総合科学部）、2016 World Yo-Yo Contestの2A部門で優勝した高田柊さん（国際総合科学部）、第8回東日本医科学学生囲碁将棋大会の囲碁高段者の部で優勝した谷麻衣子さん（医学部）、の5名が受賞されました。

また、団体の部では、平成28年度春季神奈川リーグ2部で優勝及び1部昇格を果たした男子バスケットボール部、All Japan Cheerleading & Dance Championship USA School & College Nationals 2016(全国選手権大会)の大学編成部門で優勝した応援団チアリーダー部SEAGULLSの2団体が受賞されました。



写真上は学長賞受賞者、下は学長奨励賞受賞者

保護者説明会



在学生保護者説明会を各キャンパス及び地方会場（福岡、岡山）で開催しました。開催にあたり後援会からは、保護者の方の昼食代や資料作成のための費用等を助成していただきました。

保護者の皆様方に本学の教育・研究・学生支援等の取り組みや学生のキャンパスライフについてご理解いただくことを目的に開始した保護者説明会も、今年で6年目となりました。今年度は、従来の会場であったシーガルセンターに加え、平成28年に竣工したYCUスクエアでもプログラムを行い、本学の新たな魅力をお伝えしました。また、全体説明会の内容に関しても、若手職員が中心となったプロジェクトメンバーで

全面的な見直しを行った結果、多くの保護者の方々にご好評をいただくことができました。なお、金沢八景キャンパスでは同日に後援会の総会も開催し、出席された保護者の方々へ後援会の取り組みをご紹介しました。

卒業生送別祝賀会



平成28年度は、国際総合科学部674名、八景キャンパス大学院119名がそれぞれ卒業・修了しました。学位記授与式後の祝賀会は6つの会場に分かれますが、平成28年3月に竣工したYCUスクエアも新たな会場として加わり、大変賑やかに開催されました。

例年、八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、学部ではコース、大学院では専攻に分かれて学位記の授与式を行っております。後援会の助成により、学内の会場における祝賀会を実施しています。

国際総合科学部専任教員・非常勤講師懇親会

専任教員及び平成29年度非常勤講師予定者を対象とした「横浜市立大学FD・SD研修会」が平成29年3月3日に「障害に対する理解」をテーマとして実施され、59名の参加がありました。

まず第1部では、本学のバリアフリー支援室と障害者雇用推進室の取組紹介、また実際に本学に雇用されている障害のある方の講演がありました。

次に、小田原保健管理センター長より、生活習慣の変化による身体的負担や、対人関係、学業等に伴う心理的負担などを抱える学生のケアについてお話がありました。障害者支援の困難な点について「支援をするには本人の意思表示（同意）が前提」であることから、周囲が問題と感じていても本人から支援要請がないことが多いため、その際にはバリアフリー支援室、キャンパス相談の利用を勧めてほしいとの依頼がありました。

第2部では、引き続き小田原保健管理センター長に統括いただき、対応に苦慮する学生の支援をテーマに、事例に基づいたグループディスカッションを行いました。

学生、教職員を問わず、「法律が施行されたから『合理的配慮』を実施する」のではなく、「多様性を持った学生、教職員とキャンパス内で共生することが大切である」と共有することができ、大変有意義な研修となりました。

また、FD研修会終了後は後援会の助成により懇親会を開催し、21名の教職員の参加があり、親睦を深めました。毎年後援会よりご支援をいただくことで、また授業以外における課題や要望等を聴取することにより、本学の学部教育のさらなる改善に役立てることができ、大変有意義な機会となりました。

経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。また、日本学生支援機構や給付型の各種団体奨学金の案内、手続きのサポートも行っています。

各種制度の申請募集は基本的に年1回ですが、年度の途中で家計が急変した方に対しては、緊急応急対応型授業料減免制度等により、通年で支援を行っています。

第67回浜大祭

平素より私たち浜大祭実行委員会に対する皆様のご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

後援会の皆様の多大なるご支援のお陰で、第67回浜大祭は11月3日（金）から5日（日）までの3日間、金沢八景キャンパスにおいて多くの方々にご来場いただき皆様の思い出に残るような学園祭を無事開催することができました。誠にありがとうございました。

今年度の浜大祭のテーマは“「J」-space-”でした。こちらには宇宙と場所という二つの意味があり、多くの星が輝く宇宙のように、様々な出展・企画がそれぞれの個性を持って、輝けるようにという想いと、来場者の方に楽しんでいただけるような場所を提供すると同時に、浜大祭が地域の方々と市大生の交流の場になるようにという想いを込めました。

今年度は例年を遥かに上回る方にご来場いただきました。より多くの方々の交流の場となり、学生たちのエネルギーがあふれる学園祭となりました。



第66回関東甲信越大学体育大会

平成29年8月15日（火）～9月6日（水）に、関東甲信越地区の国公立大学13校が参加する「第66回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。今年度は千葉大学が主管を担当し、本学と横浜国立大学が当番校となり運営を行いました。今大会では本学から14団体219名が参加し、柔道部が個人戦で準優勝、3位入賞、剣道部においては個人戦で優勝という結果を果たすなど日頃の練習の結果を存分に発揮し、素晴らしい成績を残すことができました。

今年度は、本学が当番校のため、大会運営の準備に数か月前から取り組み、試合等が円滑に進むように学生担当、運動部連合会、各運動部が連携し、無事に大会を成功に導くことができました。また、遠方の試合会場で開催される競技も多くあり、その際には後援会からの補助金を選手の遠征費等などに充てさせていただいております。毎年頂いている運動部連合会に対しての援助により、これらの活動が円滑に行うことができます。心より感謝申し上げます。どうか今後もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



運動部連合会 関東甲信越大学体育大会担当 小倉 慎司

クラブ活動

●陸上競技部

私たち陸上競技部は、週3日グラウンド、競技場を使用して活動しています。グラウンドの状況や設備の不足等の問題もありますが、その中で各々が自分に足りない部分を認識し、自己記録向上に向けて主体的に日々練習に取り組んでいます。私たちは5月に行われる関東インカレ、9月に行われる全日本インカレ出場が主な目標です。今年度は4名が関東インカレ、内1名が全日本インカレに出場しました。すでに新たに男女4×400mリレーをはじめとする6種目8名が来年度の関東インカレ出場を決めており、他の選手もそのような姿を見て背中を押され、目標達成のためにも上昇志向を持って練習に励んでいます。

私たち陸上競技部が伸び伸びと、精力的に練習に取り組むことができるのも、ひとえに後援会の皆様の多大なるご支援、ならびにご声援の賜物であると部員一同感じております。今後も皆様のご声援に報いるような結果を残すためにも日々自己記録向上に向けて練習に取り組んでいきますので、これからも今までと変わらぬ温かいご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。



陸上競技部 主将 牧野 和馬

Campus Life

●ラグビー部

私たちラグビー部は現在プレイヤー17名・マネージャー4名の計21名で活動しています。活動日は火・水・金・土の週4日で、リーグ昇格に向けて日々努力を続けております。人数が少ない中、質の高い練習ができるように部員同士で考えながら練習メニューを決めております。

ラグビーは己の体のみで戦うコンタクトスポーツです。そのためケガをすることや、練習道具が壊れることが多くあります。昨年度はテーピングやタックル練習に使用するバッグを購入し、練習するにあたり大きな役割を担っています。これには後援会からの支援金も充てられており、部員一同感謝しております。そしてOB・OGの方々には日頃の練習や合宿、試合に足を運んでいただくなど様々な面でご支援、ご協力を頂いています。

こうして多くの方々に支えられて活動出来ていることに感謝し、また、期待に応えられるよう日々努力して参りますので、これからもご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

ラグビー部 主将 長濱 智晴



●Second Wind Jazz Orchestra

1969年から続く私たち「Second Wind Jazz Orchestra」は、ジャズの楽曲を、ビッグバンドという形態によって演奏を行う部活動です。50名の部員が所属しており、Jrバンド（1・2年生中心バンド）とRg.バンド（3年生中心バンド）の2つのバンドに分かれて活動しています。コンテスト・学内行事や依頼演奏などの本番に向け、各バンドが週2日の活動を行っています。楽器経験者の部員が多く所属していますが、大学入学時点では楽器未経験であった部員もいます。部活動のスケジュールや練習方法などの運営は全て部員が管理しており、各部員の自主性を重んじています。学業との両立を図りつつ、活動日以外でも部室にて個人練習を行い、日々向上心を持って活動しております。

2017年度の活動としましては、他大学との合同演奏会（ジョイントコンサート）を6回、依頼演奏を7回、コンテスト参加を1回、学校行事での演奏を5回行いました。光栄なことに、今年度も多くの演奏機会をいただきました。毎回の演奏では多くの方にお越し頂き、温かい拍手・ご声援をいただいております。より質の高いステージをお見せできるよう、今後も部員一同、努力を続ける所存であります。

楽器の購入や維持管理、譜面や備品の購入などのために、後援会から頂いた補助金を使わせていただいております。今年度も厚いご支援をいただき、本当にありがとうございます。おかげさまで毎年、充実した活動が続けることが出来ております。今後とも温かいご支援とご協力の程よろしく申し上げます。

今年度の定期演奏会を、2017年12月25日に横浜市南公会堂にて行います。開場時刻は16時30分、開演時刻は17時となっております。入場無料です。私たちの活動の集大成をご覧ください。ご来場を心よりお待ちしております。



●ジャグリングサークルしゃかりきパンダ

私たちしゃかりきパンダは月曜日と水曜日の週二回、八景小学校の体育館と本校舎の教室で楽しく活動しています。主な活動として、ジャグリングとバルーンアートの練習を行っています。大学から始めた部員がほとんどです。活動の発表の場として横浜市や鎌倉市、逗子市といった地域の地区センターでのイベントやお祭りなどへのジャグリングの出演依頼をいただいております。創部からまだ10年も経っていませんが、このようなご依頼を年間通じ多数いただいております。ご覧いただく方々のためにも、よりよい演技内容とするため、日々切磋琢磨しています。

日々の練習や演技を行うためにはジャグリングの道具が不可欠です。しかし、ジャグリングの道具は高価なものが多い上、物によってはすぐに壊れてしまうなど個体差も激しいため、後援会からの補助金により購入させていただいております。皆様のご支援により活動が行えていると思うと感謝の念に堪えません。ありがとうございます。今後ともご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。



ジャグリングサークルしゃかりきパンダ部長 柿沼 智光



キャリア支援センターでは「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標とし、学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業セミナーなどさまざまなキャリア支援に関する講座やイベントに参加することができます。さらに単位認定も可能である国内・海外インターンシッププログラムでは、グローバルな視野を身に付けたり、企業や職業を深く理解するきっかけを得ることができます。平成27年度からは、自分自身と自分がおかれている世界を多角的に捉え、豊かなキャリアを築くために大切な視点や考え方を身につけるための講義であるキャリア形成実習(キャリアデザイン)を開講し、またUターン・Iターンを支援するため、全国10大学と「就職支援パートナーシップ制度」を締結するなど、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・進路相談	専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から、履歴書、エントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。	
就職支援講座・イベント	一年を通して、合同企業セミナーや就職ガイダンス、業界研究入門などの多彩なイベントを実施しています。また、公務員講座を学内で行うなど、就職支援講座も充実しています。各種イベントでは、多くのOB・OGの方をゲストとしてお招きしています。	
キャリア形成実習 (キャリアデザイン)	主に学部1年生を対象に、仕事や就職だけでなく、これからの人生を歩んでいくために必要な観点を得ることを目標にした講義です。OB・OGの方をスピーカーとして招き、学生時代の経験が社会に出てどのように活かされているか、社会に出るとはどういうことか、といったことをお話いただく機会も設けています。	
インターンシップ	民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。 ※1年次後期以上対象 海外インターンシップについては、6ページ、8ページをご参照ください。	
キャリアサポーター制度	キャリアサポーターとは、在学生の就職支援を行うOB・OGの方です。学生が直接連絡をとり相談ができ、現在約1,800名の方に登録いただいています。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在学生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいています。	
キャリアメンター制度	就職が内定した学部4年生/修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生/修士1年生に対して、相談・指導する制度です。学生同士の交流を目的とした「内定者と就活生の集い」の開催費用を後援会より助成いただいています。	
書籍・DSソフトの貸出し	キャリア、業界、職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出ししています。書籍やソフト購入の一部は、後援会より助成いただいています。	
YCU Portalによる 情報提供	本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約や求人票、インターンシップ情報の閲覧等オンライン上でキャリア支援を行います。	
就職支援 パートナーシップ制度	本学学生が下記全国10大学で求人票の閲覧や就職相談が受けられる制度です。 国際教養大学、福井県立大学、信州大学、都留文科大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、大阪市立大学、兵庫県立大学、広島市立大学、北九州市立大学	

Career Support

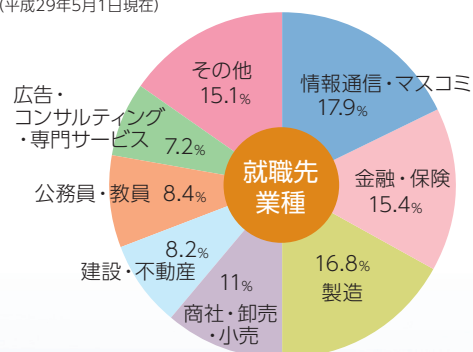
入学から卒業までの流れ

学年	1 年	2 年	3 年	4 年
支 援 内 容	新入生オリエンテーション			進路報告
	キャリア形成実習（キャリアデザイン）			
	キャリア面談		就職・進路相談	
	書籍・DS 貸出し			
	YCU Portal の活用			
	キャリア支援イベント			
			就職ガイダンス	
			合同企業セミナー	
			キャリアメンター制度	
			キャリアサポーターとの集い	
			OB・OG 訪問（キャリアサポーター制度）	
			就職支援パートナーシップ制度	
			公務員講座	
		国内・海外インターンシップ		

卒業生進路

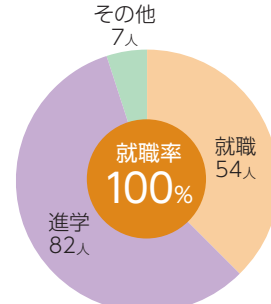
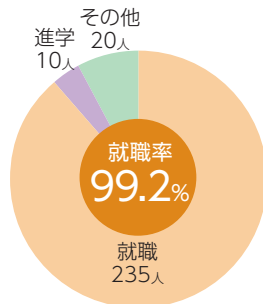
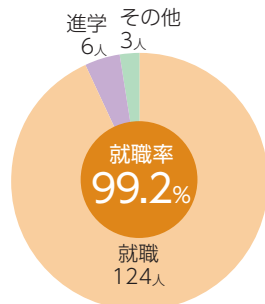
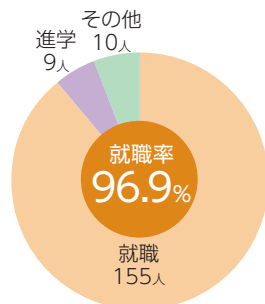
就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得など、卒業後の進路は様々です。国際教養学系、国際都市学系、経営科学系の文系の学生は80%以上が就職を希望し、理学系では約6割の学生が進学しています。平成28年度卒業国際総合科学部全体の就職率は98.7%となり、全国平均を1.1ポイント上回る数値となりました。グローバルに事業展開するさまざまな分野の民間企業への就職のほか、横浜市役所や横浜銀行など横浜市内で働くことを希望する学生も多く、就職後の状況は各企業から高い評価をいただいております。

■平成28年度国際総合科学部 卒業生業種別就職先
(平成29年5月1日現在)



■平成28年度国際総合科学部 卒業生進路状況 (平成29年5月1日現在)

国際教養学系				国際都市学系				経営科学系				理学系			
進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他	進路	就職	進学	その他
男	43	0	5	男	25	4	1	男	107	3	13	男	21	42	1
女	101	2	8	女	80	4	1	女	121	4	4	女	27	53	4
男女計	144	2	13	男女計	105	8	2	男女計	228	7	17	男女計	48	95	5



■平成28年度国際総合科学部 卒業生の主な就職先・進学先

就職先 (抜粋)

製造	アメリカンファミリー生命保険	オービック
味の素	かんぽ生命保険	ぐるなび
エスビー食品	住友生命保険	ソニービジネスソリューション
日本ハム	損害保険ジャパン日本興亜	DMM.com
花王	第一生命保険	東北放送
キャノン	東京海上日動火災保険	日本電子計算
ダイキン工業	日本生命保険	東日本電信電話
タカラベルモント	三井住友海上火災保険	富士ソフト
テルモ	明治安田生命保険	楽天
プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン	建設・不動産	ワークスアプリケーションズ
ライオン	一条工務店	広告・コンサルティング・専門サービス
日本アイ・ビー・エム	鹿島建設	アクセントチュア
日本電気 (NEC)	大和ハウス工業	帝国データバンク
パナソニック	竹中工務店	マイナビ
日立製作所	東急建設	リクルートキャリア
富士通	長谷工コーポレーション	商社・卸売・小売
富士電機	アトレ	イトーヨーカ堂
日本発条	イオンモール	岩谷産業
三菱自動車工業	三井不動産	オンワード樺山
金融・保険	ルミネ	紀伊国屋書店
かながわ信用金庫	公務員・教員	高島屋
川崎信用金庫	国土交通省	豊島
静岡銀行	横浜市役所	長瀬産業
城南信用金庫	神奈川県教育委員会	阪和興業
みずほフィナンシャルグループ	神奈川県警察	三井物産
三井住友銀行	神奈川県庁	メタルワン
三井住友信託銀行	川崎市役所	運輸・旅行・その他
三菱UFJ信託銀行	東京都教育委員会	エイチ・アイ・エス
ゆうちょ銀行	東京都庁	山九
横浜銀行	東京都特別区	全日本空輸
りそなホールディングス	情報通信・マスコミ	東京電力
大和証券	エクサ	日本航空
野村證券	NTTコミュニケーションズ	東日本旅客鉄道

進学先 (抜粋)

進学先 (大学院)
横浜市立大学
大阪大学
熊本大学
首都大学東京
信州大学
千葉大学
中央大学
東京医科歯科大学
東京工業大学
東京大学
東北大学
一橋大学
横浜国立大学

横浜市立大学後援会会則（新）

(名称)

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。

(目的)

第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への支援
- (2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
- (2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
- (3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）

(役員の設置)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以内
- (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。
- 3 理事のうち2名を業務執行理事とする。

(役員の選出)

第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、会員資格を失ったときは退任する。

(役員の任務)

第9条 役員の任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
- (4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

(顧問)

第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
- 3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べるることができる。

(職員)

第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。

- 2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

- 2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の決議事項)

第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。

- (1) 役員の選任
- (2) 事業報告及び決算の承認
- (3) 会則の改正
- (4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項
- 2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
- 3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(理事会)

第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。

- 2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。

(理事会の決議事項)

第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。

- 2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。
- 3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会費)

第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。

- 2 会費の額は、次のとおりとする。
 - (1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）
 - (2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）
- 3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の改正)

第19条 この会則の改正は、総会で行う。

- 2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則

- 本会則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

本会則は、平成22年6月26日から施行する。

附則

本会則は、平成26年7月5日から施行する。

附則

本会則は、平成29年7月1日から施行する。

横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp